

令和7年10月28日

奈良県知事 山下 真 様

奈良県外国人観光客交流館あり方検討委員会

委員長 中山 徹 (自著)

奈良県外国人観光客交流館のあり方について (答申)

令和7年6月6日付け観戦第41号で諮問のありましたことについて、下記のとおり答申します。

記

奈良県外国人観光客交流館については、赤字での運営が続いていること、施設の老朽化や損傷が顕著なことから、改修および維持管理費用が増加しており、今後の財政負担がさらに重くなることが懸念される。また、設置目的を一定果たしたと考えられることから、当館を廃止することが望ましい。

閉館後においては、眺望の良さや、奈良公園・ならまちの玄関口という好立地を活かし、地域の価値を高める活用が期待される。

例えば、宿泊施設、観光客と地域を繋ぐ交流拠点、あるいは地域回遊性を高めるシェアモビリティ施設等の整備が考えられる。

今後の新たな活用にあたっては、以下の点について留意することが望ましい。

- ・ 訪れる人々が地域住民との交流を通じて、地域の文化や日常生活に触れ、地域のみならず奈良県全体への理解を深められる体験の提供が可能であること。
- ・ 運営においては、民間が有する経験や知見を積極的に活用すること。
- ・ 長期的な運営計画のもと財政面での安定性及び持続可能性を確保すること。
- ・ 周辺地域への回遊性を高める観点から、近隣施設との連携を推進すること。
- ・ 周辺地域の観光資源としての魅力を向上させるため、奈良公園及び周辺景観との調和を図り、隣接する猿沢池周辺を含めた一体的な活用について検討すること。

本答申を踏まえ、閉館後の活用の具体化に向け、民間から広く意見を聴取することが望ましい。